

第 21 回 朝来市公共交通会議 会議録

○ 開催日時 令和 6 年 6 月 6 日（木） 午後 3 時 30 分から午後 5 時まで

○ 開催場所 朝来市役所本庁舎 4 階 会議室

○ 出席者氏名

	出席者	欠席者
委員	天 野 修 二	卷 野 めぐみ
	黒 崎 崇 裕	浅 田 繁 市
	清 瀬 真紀子 (代理：日下部 達也)	
	森 口 洋 平 (代理：岡田 勝)	
	山 口 忠 司	
	大 北 立 秋	
	小 田 正 儀	
	山 本 正 之	
	小 谷 豊 彦	
	高 品 浩	
	木 原 健 太 (代理：檜岡 弘)	
	山 本 良太郎	
	熊 谷 樹一郎	
	井 上 学 (web)	
	藤 野 隆 志	
	新屋敷 昭 一	
	藤 本 修	
	伊 藤 宣 廣	
	西 垣 尚 子	
事務局 (都市整備部都市政策課)	部 長 小 谷 康 人	
	課 長 京 住 真 志	
	副課長 足 立 智 義	
	上席主査 大 林 厚 之	
	主 査 中 治 佑 介	

○ オブザーバー 兵庫県交通政策課 副課長 新 田 博 史

1 開 会

2 委嘱状交付

熊谷委員代表受領、その他の委員は机上配付した。

3 あいさつ

市 長： 本市では、令和4年度を公共交通対策元年とし、将来の公共交通のあり方について検討を進め、令和5年度には市民アンケートやまちづくりフォーラムなどで、市民の皆さまのお声を聞き、朝来市地域公共交通網形成計画に基づく第3次再編指針を取りまとめ、今日まで取組を進めてきた。

本年4月から新たな公共交通体系として、デマンド型乗合交通の導入を市内各エリアへ段階的に進めている。

これらの公共交通対策の検討、推進にあたっては、本市の公共交通会議において、貴重なご意見を頂戴するとともに、ご協議をこれまでいただいていた。

今後も委員の皆さまからご意見を賜りながら、持続可能なより良い公共交通体系を確立していきたいと考えている。委員の皆さまには、専門的な見識や住民としての視点など、様々な視点から、忌憚のないご意見をいただきたい。

4 会長及び副会長の互選

委員の互選により、会長に摂南大学の熊谷委員、副会長に和田山町区長会長の山本委員を選出した。

5 自己紹介

委員及び事務局が、自己紹介を行った。

6 報告事項

(1) 令和5年度朝来市コミュニティバス（アコバス）の利用実績及び高齢者等優待乗車カード（あこか）の購入状況

事 務 局：【資料1に基づき説明】

(2) 令和6年度公共交通政策の取組

事 務 局：【資料2に基づき説明】

委 員： 資料5ページの⑩駅周辺施設の環境整備ということで、「市内6駅の市営駐車場の無償化を検討する。令和7年度から、市営駐車場の無償化が実現できるようすすめる。」とあるが、現在のところ、どういうふうに、どういう思いで考えているのか。また、山東は駅に駐車場があるか。

事 務 局： 市内にはJRの駅が6駅ある。駅ごとに状況は異なっており、市営駐車場がある駅もあれば、ない駅もある。また、駐輪場がある駅もあれば、ない

駅もある。このような状況において、なるべくスピーディーに市民の皆さまにご利用していただくため、できる駅からできることをやっていく、というスタンスで現在のところ進めている。

また、この春に組織改編があり、公共交通政策について、従来の企画部門の総合政策課から都市整備部の方に事務が移った。市営駐車場を所管する部署でもある。現在、どういう課題があるか、どういった問題があるかなど、整理している最中。しかるべきタイミングで、無償化に向けての検討なども、報告していきたい。現在のところは、現状把握をしている状況である。

委員： 例えば、和田山駅であれば、最大 24 時間で 300 円。それから後、12 時間おきに 300 円。利用する人からみると、すごく安い料金で、利用しやすい。各駅によって駐車場の料金がどうなっているのか、違うのか。

また、播但線に乗っていると、青倉駅では、QR コードを使用するような看板が見える。高齢者がそういったことをできるのかなと思う。高齢者が使いやすいということも考えてほしい。

事務局： この春から、月極駐車場の管理会社に変更となり、従来と取扱いが違っているという状況もある。昨年実施した市民アンケートの中で、市民の皆さまからご要望が多かったのは、「鉄道に乗りたいが、駅周辺に駐車場を整備してほしい。できれば無償で。」というようなご要望が多かった。こういった状況から、現在、検討を行っているが、本当に無償化できるのか、無償化に向けてのハードルなどを整理しながら進めていく予定。

委員： 5 ページの⑭について、「播但線鉄道整備・利用促進協議会」が設立され、もう何回かやっておられると思うが、何か話ができるのであれば、お願いしたい。

事務局： ⑭「JR ローカル線維持・利用促進検討協議会」の件については、JR 赤字ローカル線問題を受け、一昨年、兵庫県に音頭をとっていただき、そういった検討会を作ろうということで、赤字ローカル線として公表された県内の 4 路線について、利用促進を図るため、県庁の中にラウンドテーブルが置かれた。各路線にワーキングチーム、また、検討していくための担当者会議が設置されている。今年もそれぞれの会議が予定されており、利用促進に向けた検討が進められていく。

本市にとって一番大きいのは、播但線の利用促進。播但線については、「播但線鉄道整備・利用促進協議会」の利用促進部会の中で、利用促進をいかに図るべきか検討を重ね、ワーキングチーム、そして県のラウンドテーブルに順序よく上げていくようなスケジュールで、今年度は進めていく予定。

委員： 今後、住民に協力を求めないといけない場合もあると思う。今まで、お知らせもあまり見たことないが、今後、会議の内容など公表できるものは、公表してもらい、住民として協力できることはしっかりやっていかないとけないと思うので、よろしくをお願いしたい。

委員： ⑭の取組概要のところで、記載方法を変更いただきたい。JR の赤字ロー

カル線と書かれているが、当社としては、ご利用の少ないローカル線というような表現しているので、赤字という言葉は変えていただきたい。

委員： ⑩「駅周辺施設の環境整備」で無料駐車場の検討をされているとのことだが、私も年に数回、有料駐車場を利用している。バーがあり、安心と思い利用しているものもある。もし、あれが無料になれば、長いこと止めっぱなしの自動車などの管理が必要になるのではないかと懸念する。

もう一点、高校生や中学生の送迎で、駅の周辺が通学の時間帯は送り迎えの車が多く、前もって切符を買おうと思い、駅へ行っても車を止めるところがない。階段降りてすぐのところは、駐車禁止のポールが立ててあり、そこにも止めることができない。切符を買いたいが、どこに車を止めたらいいかということで、私ぐらいの年齢ですら迷っている。もっと高齢の方は、駅で切符を買うのも、ちょっと難しくなって、戸惑われる方が多いのではないかと。駅周辺の整備の時には、そういう面も考慮していただきたい。

事務局： 現在検討を進めている中で、駐車場の管理の仕方について、予約制にするのか、そうじゃないのかななども含め、検討中。なるべく分かりやすい形を考えている。あまりややこしくしてしまうと市民の皆さんに、分かりにくくなってしまい、余計利用しづらいことにもなる。また、民間事業者がある駅もある。そういった観点から、この駐車場の管理については、いろいろな問題があるが、一歩ずつクリアしながら進めていく予定。

駅前の駐車場、ロータリーについて、送迎の車で乱雑な状態となり、駐車スペースがないという問題も大きな課題である。特に、和田山駅の夕方のラッシュ時はひどい状態で、これについては、いろいろな方面から改善の要望も上がっている。都市政策課が所管しており、現在、駅前ロータリーのあり方についても、庁舎内で検討している。

いろいろ課題はあるが、ちょっとずつでも進めていく予定としており、また良きアドバイスがあればお願いしたい。

委員： 問題点は共有できていると思う。今後、皆さんで改善に向けて検討いただきたい。

オブザーバー： ⑭の利用促進協議会の取組は住民の理解が進む情報提供ということで、ホームページに公表している。各ワーキングチームや沿線の市の皆さんに非常に力を入れて頑張ってもらっており、最近では自治体が主体となって、駅前の賑わいのイベントなど、利用促進の取組をいろいろ取り組んでいただいている。地元の方が理解して残すという気運づくりが大事であり、それぞれのワーキングチームの取組などは、引き続ききちんと情報発信していく。

(3) 朝来市デマンド型乗合交通導入スケジュール

事務局：【資料3に基づき説明】

委員： 10月から朝来エリアでデマンド型乗合交通が開始されるが、路線バスが現行運行されるルートについて、ダイヤ改正、路線の運行時間の変更という

のは、いつ頃に決定するのか。

事務局： 朝来エリアの路線バスについては、まずは市民の皆さんに混乱が生じないようにデマンド型乗合交通を先に優先してやっていく。10月にデマンド型乗合交通の運行を開始した後、試験運行期間中に路線バスの話をさせていただく予定。半年間で路線バスの整理をし、路線バスの再編に合わせて、デマンド型乗合交通の本格運行を迎えるというようなスケジュールで進めていく予定。

いずれにても、デマンド型乗合交通と路線バスがごちゃごちゃにならないようにしたいと思っており、まずはデマンド型乗合交通をしっかり試験運行していく。試験運行の半年間に路線バスの再編協議も進め、デマンド型乗合交通の本格運行に繋げていくようなスケジュールで進める。

委員： アコバスや路線バス、また、これから進めていこうというデマンド型乗合交通、こういったものを包括的に比較対象して、見られるような数値というのはないのか。例えば、資料1のアコバスの利用状況集計表は、緻密に調査をされて数値が出ている。今回、初めて参加したが、「包括的にこうだから、次、デマンド型乗合交通にいきます。」という、分かりやすく理解できる資料があれば、次回でも提示いただきたい。

また、デマンド型乗合交通の1ヶ月間、生野エリアで546件。546人ではない。アコバスでは人数で推移を集計されて、例えばスタートから何%減少しているなどの数値がわかる。件数ではわからない。546件で何人だったのか、あるいはこの方々がアコバスのコース別では、どのように利用されていたのか、そういったものがないと利用者の数字だけを羅列することになり、利用する住民の方がうまく移行されているのか、結果PDCAのCの部分が全然わからなくなってしまう。この辺りも次回、提示いただきたい。

事務局： 今のところ、そういった比較対象をするような資料は作っていない。今回の会議までに、分かりやすいような資料、また、単位を揃えたような資料を準備し、一目でわかるように工夫する。住民説明会の際にも、パンフレットを中心に、まずはデマンド型乗合交通とはどういうものなのか、今のご利用実態などもあわせて説明をし、理解を深めていただく必要がある。今、いただいたご意見を今後に繋げていきたい。

546件という件数については、片道1件という計算で計上しているが、実人数で何人乗っているかが、今日お配りしている資料ではわからない。この点についても、比較対象ができるような資料作りに努めていく。

会長： 新しい形になっているので、そういった数値を「見える化」していくことは、大事。次回までによりしくお願いしたい。

委員： 重ねてになるが、利用者の方が新しいツールで利用される。利用者の方の「どうなるんだ。」というところを解決していくのが我々だと思う。例えば、住民説明会で分かりやすく説明してあげないと、「新たなものができたから、新たなものを利用してください。」では、何も始まってないし、難しい。もう少し分かりやすくしてほしい。

委員： 今生野で試験運行をしているが、その問題点、課題等が見つかっていれば、後でもいいので聞かせでほしい。私の方が直接お聞きして、大変だなということも2、3点ある。そういった課題等の解消に向けて、今後、旧朝来町、和田山・山東エリアに活かしていきたい。

委員： 生野からスタートをされて、実際やってみて最近では観光客の方でも使うようになってきたと聞いている。完全に周知していくには、そこそこの時間が必要かと思う。昨日も区長会の中で意見を出してもらったが、個別案件的なものも中にあるので、車両の不具合等、これについては、後ほど担当課と話をしていく。

去年の実証運行があったときのことを考えても、意識としてはだんだん高くなってきたと思う。もっと利用促進が増えるように力を入れていきたい。かなりの高齢の方が利用されるので、乗り降りに時間がかかる、特に降りるときに大変、困っておられるケースもあるようだ。これについては個別案件になるので、担当課と話をしていく。いずれにしても、生野では、全体としてはうまくいきつつある。

（４）朝来市デマンド型乗合交通（生野エリア）の運行状況

事務局：【資料4－1、4－2に基づき説明】

委員： まず生野エリアのデータについて、ODをしっかりと見て、どこから乗ってどこに行っているのか、何時の便は何時に出てどこに行っているのか、細かく見ていかないと、本来は乗合が発生するはずが、別々の車両で運んでしまっているといったことが出てくる。効率的にやっているのか、やっていないのかを生野エリアのデータ2ヶ月分だけでも、精査する必要がある。

もう一つが、通勤で毎日同じような時間を使われているのであれば、それはもはや定時で運行した方がいいねとなる。一番大事なのは通勤通学の方で、その方たちに負担のないような仕組みを作っていくことが求められる。

また、ドライバーの確保についてもしっかりと確保、維持していくための支援をしていかないと、制度はあるがドライバーがいなくなるということは、容易に想像できる。検討いただきたい。

会長： 確かにODをしっかりと分析しないと、無駄な部分が発生する恐れはある。定時路線に戻すというのは、本当は必要なときにやっておくべきこと。

ぜひ、そのあたりも含めて、せつかく試験運行をしているので、本格運行に向けて、あるいは、各地域の試験運行に向けて、反映いただきたい。

委員： 先ほど通勤という言葉が出たが、これは朝のラッシュ時間帯などをイメージしてしまうが、単純に駅やバス停まで送ったということか。それとも決められたこの時間に来てくれというのが、朝のうちにあるのか。通勤の人とはどういう人か。

事務局： 現在、定期的に毎日通勤で利用されている方が2名。1人は和田山の方で、和田山から汽車に乗って生野駅へ来られ、デマンド型乗合交通で施設に送られている。その方は、乗降ポイントが施設にあり、職場まで行けるという

方。もう一方は生野の方で、工場に勤務されているが、工場が乗降場所として設定されていないため、最寄りの乗降ポイントで降りられて、歩いて職場まで行かれている方。この2人の方が常時、利用されている。

委員： 通勤という言葉が出たので、同じ時間に同じ列車に乗りたいという方があった場合は、配車の手配というのかなりテクニックがいるのではないかと思います、質問した。

事務局： 現在のところ1週間前から予約ができるということになっており、デマンド型乗合交通を使わないと会社まで行けないという方については、毎日電話をしていただいております、非常に不便をおかけしています。

この予約の仕方も、この試験運行の間にもう少し工夫できないかと考えている。一方、毎日予約で押さえてしまうと、他の方の予約に支障が出ることも考えられるため、慎重に考えていきたい。なるべくストレスなく通勤で使っていただけるような方法、予約の仕方を工夫していきたい。

委員： 運行実績を見てみると、観光利用の方がまあまあおられる。先ほどの話だと片道1人を1件として計上しているということだが、観光の方は、実際はグループ利用が多いのか。

事務局： 観光利用の方を掘り下げて見てみると、生野銀山や黒川温泉、また、春休みに生野高原のSUGOMoRIリゾートに卒業旅行に来られるという方もある。当日予約ができることから、当日に予約が一気に入り、当日の受付人数が急激に増える日もある。これについては、デマンド型乗合交通をいかに周知できているかということに関わってくるが、現在、観光客の方に周知できる方法としては、観光協会や観光施設を通じて、こういった乗り物があるよということを周知してもらうぐらいしかできてない。今後、ホームページを作って、観光利用を促進していきたいというような計画にしている。

この2ヶ月間の中で課題として挙がってきているのは、外国語で予約される方がおられ、そういった場合の対応をどうするのかといったところが課題としてこれから出てくるかと思っている。現在のところ、予約オペレーターでインバウンド対応ができるかという点と十分ではなく、生野駅の観光案内センターの方に、訳していただき、予約を取っていただくなどの協力をいただいております、まだまだ観光利用につきましては未知数の部分がたくさんある。各観光事業者の方とも協力、連携を図りながら、今後は進めていく必要がある。

委員： 例えば5月11日、観光8件となっているが、バラバラで1人ずつの8件であったのか、4人の2グループであったのか。要はそれによって、片道1人1件での計上ということであれば、8件となっても、実際は2グループとなれば、実際のところの乗合率は、もっと下がるのではないかと。要は1団体が、例えば4人ずつであれば、その車に4人乗ったとしても、グループとしては一つであり、乗合率は下がる。せっかくのデマンド型乗合交通なので、そのあたりを含めて、乗合率を上げられるような取組ができればいい。

委員長： 先ほど説明者の方からインバウンドの方の話があったが、基本的に、利用者は朝来市民に限るという説明があるが、そうではないのか。

事務局： 誤解があっては困るが、自宅登録できるのは市民の方に限るということであり、利用については市外の方も利用可能。

委員長： 利用登録されるのは市民に限って、それ以外の方はタクシー代わりに使ってもいいというのは、理解に苦しむ。あくまでも市民のいわゆる交通手段確保というのが大原則であり、観光という手段については、ちょっと外れているのではないかと感じる。

事務局： 市民の方の移動手段を確保するというのが大きな目的ではあるが、市民アンケート、まちづくりフォーラムなどを通じて、市民の皆様からも、「市民が重要ではあるが、観光客の方にも使っていただけるシステムにしてはどうか。」ということで、乗合交通を検討してきた。市外の方も、ポイント間であれば、利用できるということで今のところ進めている。

今回の資料については、パンフレットの一部を抜粋しており、これらの記述がないが、住民説明会で使うパンフレットなどでは、利用対象者について、どなたが利用できるということをしっかり書いて説明していく。

会長： 今後、周知を徹底していくということある。しっかり周知いただきながら進めていきたいと思います。

(5) 朝来市デマンド型乗合交通の愛称募集

事務局：【資料5に基づき説明】

7 協議事項

(1) 但馬地域公共交通計画（朝来市該当部分）の変更

(2) 地域公共交通確保維持改善事業

事務局：【一括議題とし、資料6，7に基づき説明】

委員長： 資料6の11ページ、但馬地域公共交通計画を改定について、神姫グリーンバスという表示をウイング神姫にしていきたい。

事務局： 本日の資料はこうなっているが、実際に提出する資料は、ウイング神姫さんということで修正している。

会長： 本件については、ご異議ないものとして、これで進めていただきます。

8 その他

事務局： 次回の公共交通会議については、8月上旬から中旬の間に開催を予定。今後、会長等とスケジュールを調整し、日程が確定次第、皆様へお知らせする。次回8月の会議は、朝来エリアのデマンド型乗合交通の運行内容等についての協議が主な内容となる。

9 閉 会

副 会 長： 長時間に渡り協議いただき、ありがとうございました。生野地区でデマンド型乗合交通が導入され、先ほどあったように愛称募集、260 件も現在あるということで、関心が高まっていると思う。これからは、ご存知のように高齢者も増えてくる。団塊の世代の人が後期高齢者になり、一番心配されるは 1 人暮らしの家庭が増えていくことで、ますます公共交通のあり方というものも問われてくる。委員の皆さまには、これからいろんな課題があると思うが、この会議を通じていろんな意見、協議されたことを朝来市の方が生かされて、いい選択ができるように頑張っていたきたい。